

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース



発行
第五福竜丸平和協会
〒136 東京都江東区
夢の島3-2
都立第五福竜丸展示館内
電話 03-3521-8494



「降下物」の説明を写しとる

明けましておめでとうございます。社会は、世界はいま目まぐるしく変化しています。国際化、情報化がますますすすみ、科学技術が新たな発展をとげる一方で、人びとの基本的な考え方や態度は多様化してきています。わが国でも、とくに若い人びとの間には、物質的豊かさや経済的利益を優先させるのではなく、精神的な面を重視し、本当に人間の価値あるものは何かについて真剣に考え、追求する姿が見られるようになりました。教育の面でも、十代から二十代の初めにかけての学齢

新年にあたって

第五福竜丸平和協会会長 川崎 昭一郎

期に一度だけ学べばすむ時代ではなく、生涯を通じて自ら選ぶやり方でたえず新しい内容が吸収しリフレッシュすることが、仕事の上でも、個人生活が充実させ自己を実現させるためにも必須となっています。社会教育の役割がこれまでになく高まり、博物館等の文化・教育施設が重要となっています。冷戦時代が終ったのち、核軍縮や核兵器をなくす問題がややもすれば後景に追いやられがちですが、人類にとって最重要課題の一つであることにはいささかの変わりもありません。そして、モチベーションさえ与えられれば、これまで思いもよらなかった新しい視点や高度なアプローチでこれに立ちむかう人びとが現れるはず。世界の人びとの良識により広島ドームは世界遺産に登録されました。水爆被災船として第五福竜丸が、訪れる多くの人びとの間に、平和の心を育みつつづけている意義は大きいものです。展示館へ来てすぐにレスポンスを示す小・中学生に会うのは本当にうれしいものです。すぐに反応がなくても、十年後、二十年後にそれを思い出し、それぞれの流儀で少しでも平和のために力を発揮していただければと願っています。第五福竜丸展示館に常時、若い世代が数多く訪れているという事実は、かけがえのないものです。本年も、訪れる方がたが感銘を受け、示唆を与えられ、啓発される展示館でありますように、そして安全に快適に見ていただけますよう、管理運営にたずさわるもの一同つとめる決意です。みなさまのひきつづくご支援、ご鞭撻をお願いいたします。



「第五福竜丸のベン・シャーン展」

第五福竜丸・久保山愛吉さん・ビキニ環礁水域・死の灰、これ等の言葉に出会うと、今でもその時全身に感じた戦慄、深く心の奥に刻まれた感情などが、当時住んでいた家の情景と共に甦ってきます。ラジオから流れてくる「第五福竜丸被爆」に関するニュースは、小学生だった私にも、何がどのようになつたのか良く分からないまでも、ただならぬ出来事が起き恐ろしい事態が生じたらしい、とい

共鳴し、密度高いメッセージとなつて 胸に響いた「ベン・シャーン展」

鮎川りえ

う事実だけは感じることが出来ました。その後も暫く、内容をしっかり覚えていませんが——久保山愛吉さんの入院中の様子などだったように思います。ラジオで放送され続けていました。そして放送が聞こえてくる度に、必ず母にぴったりとしがみついていたほど、子供心に恐ろしく思われた強烈な記憶があります。第五福竜丸展示館でベン・シャーン作品が見られることを知り、嬉しく思ったのですが、正直なところ展示館の展示物に直面することへの複雑な気持がありました。しかし、このような機会はめったにないことと、思い切つて出向くことにしました。 「夢の島」の名称は知っていても全く馴染みのない地域なので、案内板を頼りにようやく展示館へたどり着きました。船の触先を思わせる曲線が空に向かって合掌しているような建物で、入口へ回る途中でガラス越しに見える船体を横目にしながら、これから対面す

る物への気持の受入れ準備をしてきたように思います。館の中は何人かの人影がありましたが、ひんやりとした空気に一層身が引き締まるのを覚えました。福竜丸の木肌を見せた船底を囲むように並べられたベン・シャーンの写真、業績の紹介。特徴ある線で描かれ、顔の表情が訴えている「ラッキー・ドラゴン・シリーズ」の素描。柔らかな色彩と表現で、見る側の思いも受止めてくれるような水彩画。事件の全てを物語る大きな大きなテンペラ画。これ等の作品と被爆の真実を伝える展示物や、所持品と一緒に置かれた久保山愛吉さんの写真など、大切に保存されている物のひとつひとつと共鳴し合つて、より密度の高いメッセージとなり、見る人の胸に響いてきます。そして物理学者ラルフ・ラップ博士が「第五福竜丸の航海」の挿絵をシャーンに依頼した訳も、それが発端で来日し、後にテンペラ画十一点の「ラッキー・ドラゴン・シリーズ」の制作に駆り立てたことも理解出来たと思えました。久保山さんが亡くなられてから寄せられた、無念と悲しみの手紙を見るに至って、私の感情は極限に達していました。幼い頃の私の記憶の中でばやけ



「ラッキー・ドラゴン」

ていた部分のはっきりしたこと、また、草の束を持つ子と男の顔が描かれたポスターのパネルを、日々の生活で常に目にし、身近に感じていたベン・シャーンがこんなにもこの事件に深く係っていたことはとても感動です。館に置かれた「感想ノート」に書かれた子供達の怒りの言葉、シャーンが好きで訪れて初めて事件を知った若い人達の驚き。多くの人達がそれぞれの思いを抱いたことでしょう。 反核平和・核兵器廃絶を考えるときの「礎」となることと思います。熊野灘に沈んだままになつていた福竜丸のエンジンが二十八年ぶりに引き揚げられ、船体の下に戻ってくるという事です。シャーンの生誕百年も近いです。これを機に再び多くの人達に知ってもらい、考えてもらえればと願っております。(八王子市在住)

広島会議の特徴——公開性の拡大、被爆者も発言など

——パグウォッシュ会議の成果と課題(4)——

小川 岩 雄

被爆五十周年に当る一九九五年七月、広島で開かれた第四十五回パグウォッシュ会議には、四十五カ国から一五二人の科学者が参加し、初めて「核兵器のない世界をめざして」を主題に掲げ、核廃絶の方法などについて熱心に討議を行い、大きな成功を収めたが、この会議には従来の会議にはあまり見られない多くの特徴があった。

その第一は、いうまでもなく会議発足以来初めて被爆地広島で開かれたことである。開会に先立ち参加者は全員会議場近くの慰霊碑の前に集まり、ロートブラット会長の献花の後長い黙祷を捧げた。会議の合間に彼らは平和資料館を見学し、次々と訪れる来館者たちの厳しい表情にも接した。また平岡敬広島市長の歓迎の挨拶も、単なる儀礼以上の感銘を与えた。こうした事情は会議の空気を著しく引き締め、時宜を得た結論を得るのに大へん役立った。

第二は、開催の時期が核軍縮をめぐる国際情勢が急展開を見せたときだったことである。二カ月前ニューヨークで核不拡散条約(NPT)の無条件無期限延長が多くの議論の末可決されたさいに、非核同盟諸国などの強い要求で、包括的核実験禁止条約(CTBT)の九六年内の締結とそれまでの実験の自粛や、種々の軍縮課題の確認などが全員で申し合わされ、永年待望されてきたCTBTがにわかに手の届く目標となった。

ところが中国は会議の直後に自爾の公約を無視して核実験を再開し、フランスもまた近く再開すると発表して、国際世論の激しい非難の的となった。パグウォッシュも六月二十日、会長ら四人の連名でシラク仏大統領に手紙を送り、実験の即時中止を訴えている。その中で開催だけに、広島会議には特別の期待と関心が集中した。第三は、日本の参加者が非常に

多かったことである。今までは旅費や先方の事情でたかだか数人だったが今回は二十四人にもなり、専門も従来多かった物理学や国際政治学の他に、医学、原子力、平和運動、元外交官など、いろいろの分野に広がった。

とくに原子力の専門家が多数、熱心に参加または協力した背景には、最近日本のプルトニウム蓄積に対して各国の不安が募る中で、日本の原子力業界が核廃絶への志向を急速に強めているという事情がある。実際、例えば日本原子力産業会議(原産)は九四年四月に広島で開いた年次会議で、「核兵器に断固反対する」旨の「広島宣言」を採択している。

多くの原子力の専門家の会議参加は、核物質問題などの立ち入った討論に少なからず貢献した。

第四は、公開性の思い切った拡大である。テーマ別の作業グループ(分科会)を除き、六回の全体会議はすべて公開とし、参加者と市民の対話集会も行われた。

パグウォッシュ会議は発足以来開会式など一部を除いてすべて非公開とし、参加者は招待者に限るなどの原則を貫いてきた。これは冷戦の下で東西の科学者が核問題

のような微妙な国際問題について極力自由で率直な意見交換ができるようにするためだった。

しかしそのために会議を支持する多くの科学者まで締め出す結果となり、彼らや市民、学生の関心を失わせ、衆知を集め難くしてきた嫌いもある。とくに冷戦も終わり、科学者の世代交替も進んだ現在、科学者はもはや単に専門家や学問的権威として情報や警告を一方的に市民に伝えるだけでなく、進んで市民の声に耳を傾け、彼らの鋭い問題提起や指摘から多くを学び取らなければならなくなってきた。とくに被爆者の痛切な訴えや証言の前には、すべての科学者が襟を正さなければならぬ。

第五は、女性や若手の目覚ましい活躍である。あるいは全体会議の演壇で、あるいは分科会での座長や活発な発言者として、さらにはまた事務局での有能な「裏方」として、奮闘した彼らの貢献は特記に値する。

なお、一般市民の間でもこの会議への女性の関心と支持は予想以上に強く、国内での会議の詳しい報告をいち早く掲載した雑誌もある著名な婦人雑誌だった。(立教大学名誉教授、協合理事)

ベン・シャーンと久保山さん

服部 学

展示館開館二〇周年記念事業として「第五福竜丸のベン・シャーン展」が開かれた。少しはお手伝いをして夢の島に出かけてみたら、三尾さんに「久保山さんとラッキー・ドラゴンの物語り」という本を見せられた。リチャード・ハドソンが文章を書き、ベン・シャーンが画を描いた立派な絵本で、一九六五年にアメリカで出されている。早速コピーを借りて帰って開いてみると面白い。ベン・シャーンは二五枚も入っている。文章も読みやすいので夢中になって読んでしまった。長くはないので日本語に直して山下史さんにも見ていただき、一部を並べていただいた。実は私はこの本のことを知らなかった。今からでも何とか日本語の本にならないだろうかと思っ

ている。物理学者のラルフ・ラップが一九五七年の末からハーバード・マガジン誌に三回連載で第五福竜丸

のことを書き、ベン・シャーンが画を描いている。後にこれがまとめられて一冊の本になり、八木勇氏の邦訳もあるが、どうしてか画は出ていない。ハドソンはこれをテキストにしたと書いている。ベン・シャーンの方は、六〇年にニューヨークの画廊で「ラッキー・ドラゴン」と題する十一点の連作を公開しており、これらも今回の展示に並べられている。

私は絵心があるわけではなく、ベン・シャーンという名前も聞いたことがある程度であった。でもこの本の画は妙に心を打つものがある。展示全体を見るとますますその思いを強くした。小さい画が特にそうだった。チラシにもありテレビでも紹介された「降下物」のデッサンでは、二人の男の首だけが空を見上げている。全くふつうの男の人である。一人は悲しげにぐっと口をつむり、もう一人は大きく口を開いている。それだけ

である。しかしよく見ていると何か彼の言葉が聞こえてくるような気がしてくる。

十一枚の連作の中に、「物理学者」という画がある。「いろいろな元素の中でこの漁夫を襲ったのは死のストロンチウム九〇であった」という説明がついている。背景には何かの質量分布かエネルギー分布みたいなものがグラフに示されている。物理学者が手にしている四角い紙には、訳のわからない線がちやちやと描かれている。これは他にもいくつもある死の灰の降下を表した画とよく似ている。そして四角い頭の物理学者の眼がこの紙をらんらんと睨みつけている。鼻も口も何も描かれていない。顔にあるのは鋭い眼玉だけである。どうもベン・シャーンは「物理学者には人の心がない」と言いたかったらしい。絵本の方に出てくる「化学者」も、マスクみたいなものを被って大きなグラスコを見つめている。この化学者にも眼鏡しか描かれていない。

実は私は久保山さんと聞くと、どうしても展示館の前にある「原水爆の被害者は私を最後にしてはいし」という言葉の刻まれた記念

碑か、焼津のお墓を思い出してしまう。既に亡くなられた久保山さんである。しかしこの本に出てくる久保山さんは生きている久保山さんである。文章を書く人や画を描く人の方が「人の心」を掴んでいる。やはり私は物理屋の出身だということなのだろうか。もっとも一口に物理学者といっても、原爆の完成に協力した大勢の物理屋たちもいれば、一貫して核兵器に反対してノーベル平和賞を貰った人もいる。しかしとにかく「人の心」のわからない科学者にはなりたくないものである。

この本の最後はこう終わっている。「ラッキー・ドラゴンの事件は、私たちが社会として直面している問題であり、私たちの一人一人が個人として直面している問題でもある。私たちはその前に立って久保山さんと同じように何もできないのだろうか? もし答えがイエスだとすれば、この無線士は熱核時代の何百万もの犠牲者の最初の一人だったということになる。しかし答えがノーであるならば、私たちは彼を最後の犠牲者だと思いうこともできるだろう。」(立教大学名誉教授・協合理事)